



二大中だより

江東区立第二大島中学校
令和8年5月11日発行
第2号
<https://2dai-chu.koto.ed.jp>

なんでもできるような気がする

校長 西田 明史

《全校朝礼講話より》

ゴールデンウィークが終わりました。5月は、「5月病」という言葉があるように、新年度の緊張や疲れがピークに達し、張りつめていた糸が切れ、なんだか気分が優れないといった症状が出る場合があります。メンタルの不調から私たちを守ってくれる要素は「質の良い睡眠」「スポーツ」「友人」この3つだとよく言われます。「早寝・早起き・朝ご飯」の規則正しい生活を心掛け、デジタルメディアコントロールにより、スマホやタブレットばかりに時間を費やさずにスポーツをするなど身体を動かし、悩みや困ったことは一人で抱え込まずに友人や家族、先生やスクールカウンセラーなど、信頼できる人に相談してください。「二大魂」いつでも心と体を鍛えることも大切です。

今朝は、美術の教科書や資料集にも載っている画家、クロード・モネの話をしてします。モネは1840年にパリで生まれ、4～5歳の頃、家族とともにセーヌ川河口の街ル・アーヴルに移り、生活をします。中学校に入学したモネは勉強嫌いでしたが、美術の授業だけは好きでデッサンを学び、「カリカチュア」と呼ばれる、誇張したり歪曲したりした似顔絵を描き始めました。15歳の頃にカリカチュアを販売するようになると、センスあふれる描写がたちまち評判となり、1枚20フラン（約2万円）の絵が次々に売れ、貯金は2000フラン（約200万円）にもなりました。

後にモネは、「もしそのまま続けていけば、億万長者になっていただろう」と語っています。

カリカチュアを描いていたモネの作風を大きく変えたのは、画家ウジェーヌ・ブーダンとの出会いです。ブーダンは、対象の特徴をとらえたモネの絵に大きな可能性を感じて、屋外で風景画を描くようすすめました。

すでにカリカチュアで人気を得ているので、「このままでいいよ」と思ってもおかしくはありません。しかし、モネは屋外でブーダンと一緒に絵を描き始めました。

そして、光あふれる屋外での制作の魅力に目覚め、大成功したカリカチュアは、たったの2年で封印して、四季折々のセーヌ川の光と風をはらんだ風景を描き続けることになりました。

モネは18歳になるとパリに出て、本格的に画家を目指しますが、その道のりは順調ではありません。画家としての登竜門である、国が主催するサロンと呼ばれる展覧会に挑戦しますが、モネの絵は落選ばかり。当時の主流ではない、モネが熱中する身近な風景画は、全く評価されませんでした。

それでもモネは自分のスタイルを変えず、友人には「自分の目がとらえ、理解したものを描くしかない。自然を見ていると、すべてを描けるような、なんでもできるような気がする」そんな手紙を送っています。

33歳の時には仲間たちと展覧会を開催し、故郷の日の出を描いた作品「印象・日の出」を出品します。

ところが、待っていたのは新聞紙上で激しい非難でした。モネがタイトルに付けた「印象」という言葉を使って、「つまり印象が描かれているというわけか、何といういい加減さ」などと罵詈雑言を浴びせられます。自分が一生懸命に描いた作品をこのように言われたら、どれだけ悔しいことでしょうか。描くのを辞めてしまったり、路線を変更したりすることを考えてもおかしくありません。

しかし、モネは違いました。自ら「印象派」と名乗るようになり、印象派展への出品を続けます。すると、「これは風景を再現したのではなく、画家の感覚を描き出したものなのだ」という、絵画の方向性を評価する声が上がりました。

そして、「印象派」は、西洋美術史の流れそのものを変える存在となりました。

モネは、「自分を認める人のアドバイスは一旦試してみることに」、「誰もやっていない新しいことをするのは難しいけれど価値ある行動だということ」を大切にしていたのだと思います。どこか大谷翔平選手の二刀流にも通じます。

3つのC、Challengeするときの参考にしてください。

セーフティ教室 5月8日（金）

城東警察署スクールサポーター関口様にお越しいただき、SNSの「安全な使い方」や「マナーやモラル」に関する知識を深めること、事件に巻き込まれたり、被害に遭ったりしないようにするためにはどうしたらよいか理解を深めること等を目的として、セーフティ教室を実施しました。

保護者の皆様へ

日頃より、本校の教育活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

本校では、お子様が心と体を大切に守り、充実した学校生活を送ることができるよう、努めております。お子様が、悩みや不安がある際は、いつでも学校に相談することができます。

しかし、周囲の大人に相談しにくい、直接話すことができないなどあった場合は、一人で抱え込まずに、下記QRコードや二大中ホームページにある相談シートを活用し、相談することができます。

ご家庭におかれましては、学校生活における出来事について話し合う機会をもってください。お子様が「痛いな」「怖いな」「おかしいな」「モヤモヤするな」「イヤだな」と感じるのであれば、学校にご相談いただくか、相談シートや各種相談窓口をご利用ください。

相談シートは、性暴力等だけでなく、体罰等に関する相談も記載することができるようになっております。

私たち教職員は、今後も生徒の心と体を大切に守り、充実した学校生活を送れるようにしてまいります。保護者の皆さまにおかれましては、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



児童・生徒を教職員等による性暴力から守るための
第三者相談窓口（保護者の方も相談できます）